

特定行為研修修了看護師 によるPICC挿入

Chorusline Vol.55

August 2023

自治医科大学特定行為 研修施設の紹介

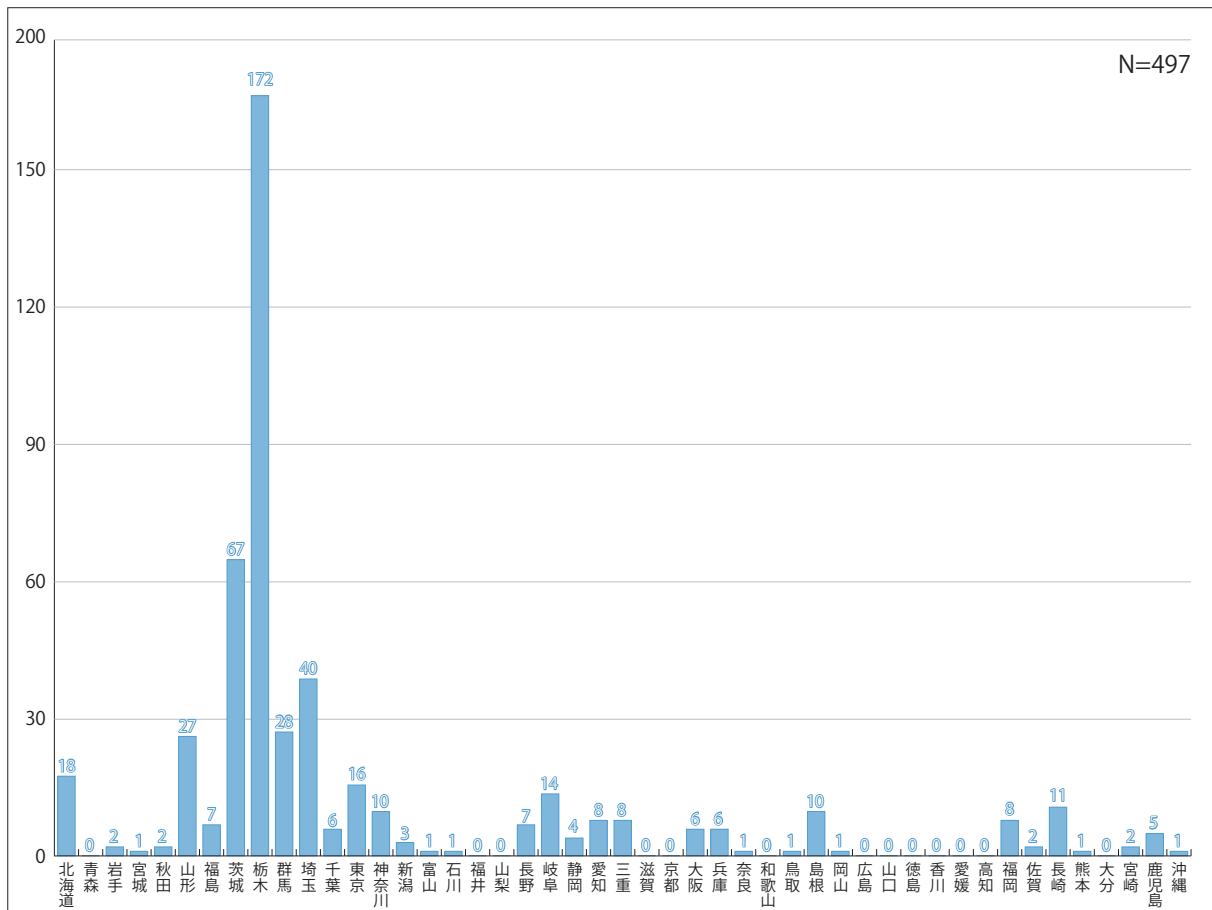


自治医科大学
看護学部 教授
村上 礼子先生

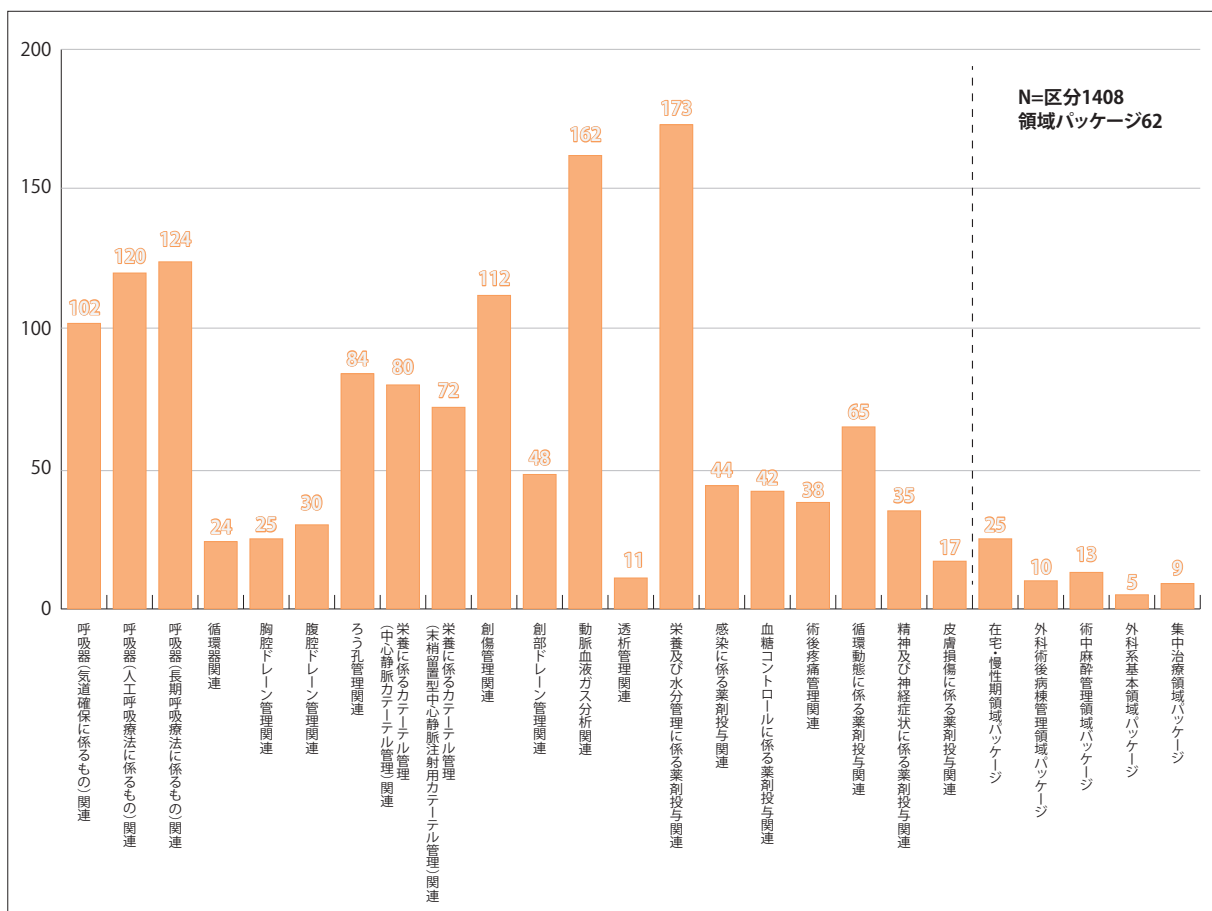
自治医科大学は、医療に恵まれない地域社会の医療の確保と向上および地域の住民福祉の増進を図ることを目的とし、建学の理念としては、高度な医療能力を有する医師と看護師を育成し、医学と看護学の進歩に資することである。この理念に基づき、平成27(2015)年度に看護師特定行為研修センターが設置され、地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、高度な臨床実践能力を発揮し、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成することを目的に、就労継続を基本として、自由選択できる20の特定行為区分、5つの領域別パッケージの研修を運営している。

令和4(2022)年3月現在、全国各地の34都道府県の看護職が研修を受講し、計428人、1134特定行為区分の修了者を輩出した(図1・2)。修了者の中には、すでに活動できている者や研修指導を担っている者から、まだ活動の準備段階にいる者もいる。

本研修センターの特徴は、特定行為の実施だけに注目するのではなく、研修目的の太字を強調した指導を行いつつ、修了後のスキルアップや活動促進に向けたサポートも積極的に行っていることだと考えている。研修責任者としては、一人でも多くの修了者が、各施設で求められる役割を自覚し、交渉・調整しつつ、自らの看護実践を拡大して、円滑な医療提供体制のキーパーソンとして、患者・利用者のために最善なキュアとケアを提供できることを大いに期待している。



グラフ 1：都道府県別修了者数



グラフ 2：特定行為区分修了者数

当院における 特定看護師としての活動



自治医科大学附属病院

看護部 高度治療部

特定行為看護師

(栄養に係るカテーテル管理関連)

齋藤 由香里 先生

当院での活動内容

当院で現在PICC挿入をする特定行為看護師は5名おり、病棟に所属しながら、月曜から金曜の各曜日で担当を決めて病院内を横断的に活動しています。依頼を受ける患者は、末梢静脈路確保困難、抗がん剤投与目的、絶食中の栄養管理目的などで、患者の状態は重症患者や認知機能低下、せん妄、意識障害がある患者など様々です。また、依頼を受ける診療科も消化器内科・外科、脳神経内科・外科、呼吸器内科・外科、口腔外科、精神科など多岐にわたっており、現在一カ月25件程度の依頼があり、特定行為看護師によるPICC挿入の需要が増えていると日々感じています。

チーム医療での PICC 挿入特定行為看護師の役割

特定行為看護師がPICC挿入を実践することで、①患者のスケジュールや病棟の状況を踏まえて実施時間や日時を調整できる、②看護の視点を踏まえて患者と関わることで、PICC挿入による不安の軽減に繋げることができる、③病棟看護師に対して看護の視点を踏まえた介助方法や管理方法の指導ができる等のメリット、役割があると考えています。

また、現在月曜日から金曜日まで各曜日で担当者がおり、毎日PICC挿入の依頼を受けることが可能な体制になっています。そのため、緊急入院や病状悪化時といった急遽PICC挿入が必要になった場合でもタイムリーに対応することが可能である他、特定行為看護師間で連携を図り、PICC挿入後も巡視をするなど継続的な管理ができるメリットがあります。

特定行為看護師として、医師の視点、看護の視点両方を活かすことで、シームレスな医療に繋がっていると感じています。

特定行為看護師と医師との連携

当院の2022年4月～2023年1月のPICC挿入件数の割合は、医師537件(71%)、特定行為看護師223件(29%)で、特定行為看護師の実践件数は増加傾向にあります。その中で、医師のPICC挿入の経験が少ないため、特定行為看護師に介助についてほしいという依頼があり、医師との連携の一環として、血管の選定やエコーガイド下の穿刺などの介助を実施しています。その他、当院では、医師を対象に年2回CVC技術認定研修会を実施しています。その際に、別室にPICC挿入のためのシミュレーターを設置し、特定行為看護師が希望する医師に対して、PICC挿入の手技の指導を実施しています。

特定行為看護師としての今後の課題

PICCの挿入件数増加に伴い、PICC挿入のメリットが認識され依頼件数も増加傾向にあります。当院のPICC挿入特定行為看護師も今後増える見込みです。活動を拡大していくに伴い、自身の自己研鑽はもちろんですが、新たな特定行為看護師の育成にも力を注ぎ、安全・安心でタイムリーなPICC挿入が継続できるよう活動していきたいと考えています。

当院における特定行為 実践看護師によるPICCの 導入から運用について



上都賀厚生協同組合連合会
上都賀総合病院
救急センター
特定行為実践看護師
廣田 貴洋先生

当院の特定行為実践看護師

当院では現在5名の特定行為実践看護師が在籍して各分野で活動しています。その中で末梢留置型静脈カテーテル挿入(以下PICC)は、現段階では自分のみが行っています。当院では中心静脈カテーテル(以下CVC)を挿入する患者が大半でしたが、ある医師が「PICCの方が感染も少なくリスクも低いよな」と私に言ってきたことがきっかけとなり、適応患者となる患者にタイミングよく挿入できることや、医師の業務軽減に繋がると考えました。

研修開始からPICC導入、運用開始まで

私は、自治医科大学特定行為研修センターで平成30年10月～令和2年3月まで特定行為の基礎知識を学びました。区分別科目の実習は上都賀総合病院(以下自施設)で行いました。新型コロナウイルスパンデミックにより一時期休校になりましたが、同期生と「特定行為看護師に必ずなる」と強い気持ちを持ち、勉学に励みました。自施設で実習を行いながらPICCの手順書、院内マニュアル、フローチャートを指導医、看護部と作成しました。院内で初めての看護師によるPICC導入だったので、フローチャート作成し周知することにより、関係者に理解してもらうことの重要性を認識しました。実習後、指導医と共にPICCを運用するにあたり、各科の医師に医局会や院内専用メールにてPICCを行える特定行為実践看護師が在籍していることや運用方法、オーダー方法、手順書に基づき適応患者等の説明を行い、各科の医師の了解のもと活動開始となりました。現在活動日は木曜日とし、安全面を考慮して、全症例透視下で実施しています。

患者選定からPICC運用まで

PICC挿入手順書に沿って、医師からPICCの依頼を受け患者の状態把握をしてPICC挿入が適切か手順書をもとに判断して行います。患者や家族への説明と同意書の取得は原則医師が行います。私が訪室した際に、疑問点や不安等はないか確認して患者の不安を最小限にしてPICCを受けられるよう心がけています。医師にPICCのオーダーを立案確定後に私個人の院内メールに患者のID、氏名が自動的に送信されてきます。木曜日当日朝に透視室スタッフと件数の確認と入室時間を決定して行います。また病室に訪室して患者の状態を確認するとともに挿入する腕、部位を決定しています。実際にPICCを行って

いる時は病棟看護師、放射線技師と連携をとりながら行っています。2021年10月～2023年3月までの件数は258件、挿入不可は7件でした。全症例施行中のトラブルはなく施行することができました。

PICC挿入後から担当看護師との連携について

PICC挿入後は、全ての患者にPICCが終了した後、翌日、1週間後に各病室に訪室して患者の状態や挿入部位の状態を確認します。その際、可能であれば担当看護師と一緒に患者の状態把握をするのと共に、PICC施行中の状態や注意して観察して欲しい事などを伝えています。医師にはPICC施行中トラブルがあった時のみ報告して当日の回診は終了としています。PICCについて疑問点やトラブルがあった際は基本的には担当医師に報告としていますが、医師不在の場合は私に連絡がくる事になっており対応できる範囲であれば私が対応しています。対応できない場合は、直接医師に報告して対応しています。

当院における特定行為実践看護師の展望・課題

今後はPICC普及とともに後任の人材育成が必要になってくると考えています。病院の方針やPICCを行うにあたりどこまで特定行為実践看護師にタスクシフトしていくか不明瞭であるので、今後は診療部、看護部その他関係部署とPICC運用と課題を検討し、病院としての方針を明確にする必要があると考えます。当院にはまだPICCが浸透していないのが現状です。挿入後の看護や注意点の勉強会等を開催してPICCについて理解してもらえるようにしていきたいと考えています。

PICC 挿入時の 1 日の流れ

※特定行為実践看護師は、毎週木曜日にPICCを行っている

PICC

8時	PICC予定患者の確認と回診
9時	PICC挿入 ・放射線科と患者の確認と入室時間の決定 ・電子カルテに記録を記載
12時	休憩
13時	PICC挿入 ・放射線科と入室時間の調整、PICC回診 ・カルテの記載 ・PICCで使用する器材や衛生材料の確認 ・手技についての振り返り
17時	終了

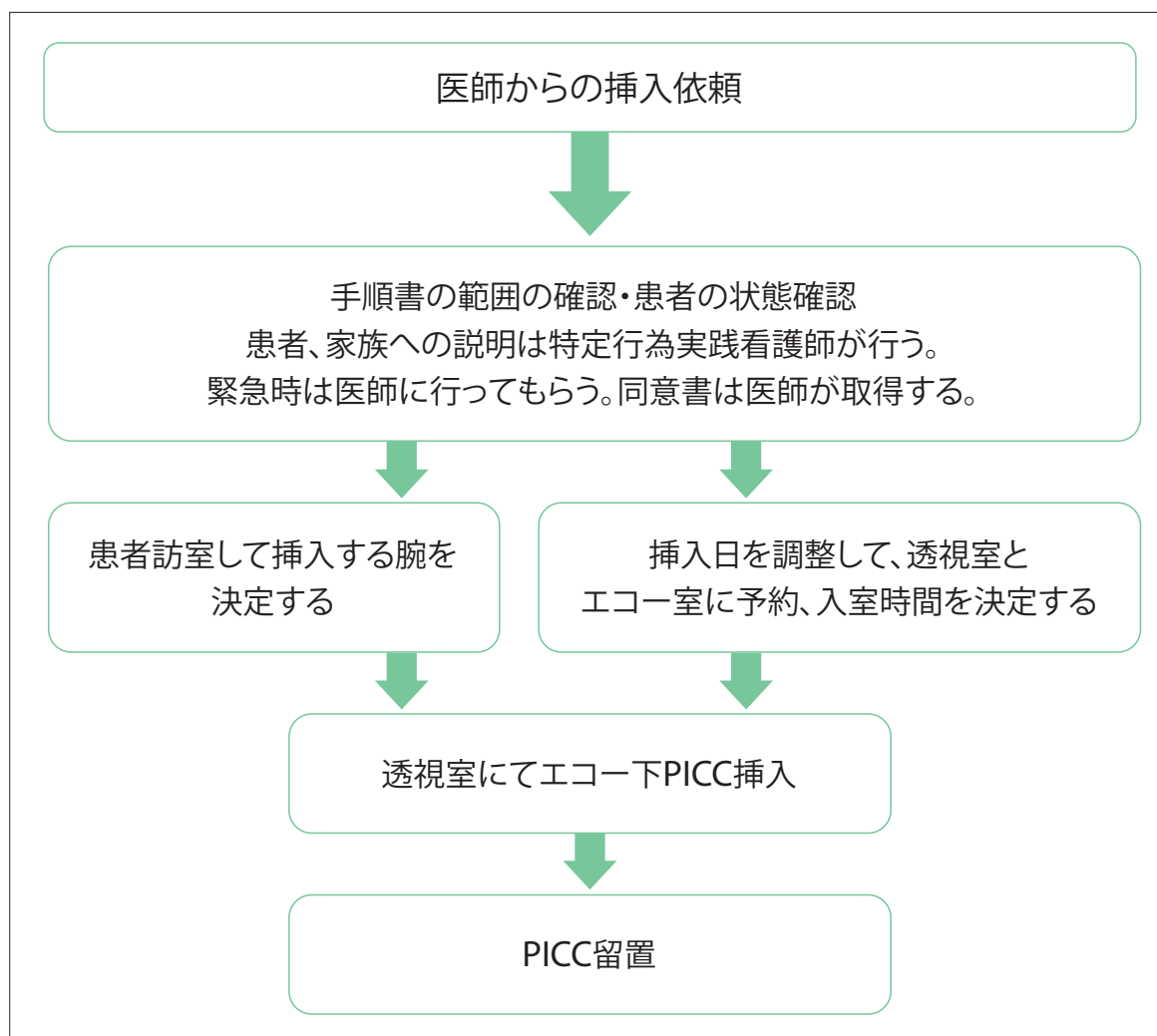


図 1 : PICC 挿入フローチャート

当院における 特定看護師としての活動



一般社団法人
伊勢崎佐波医師会病院
看護部 特定看護師
柝 堀 香 先生

研修を受けるまでの経緯

NSTや褥瘡チームで活動する中で、すぐに対応したいが医師の業務負担など諸問題により、タイムリーに処置が受けられないことにジレンマを抱え、何か自分にできないかと思い研修を受けました。

施設の紹介

伊勢崎佐波医師会病院は病床数255床で外科・内科・循環器科・脳外科・小児科を主とし、急性期病棟・療養病棟・地域包括ケア病棟からなる救急医療を含む地域医療全般を担う地域の中核病院です。救急告示病院・開放型病院・地域医療支援病院・地域災害医療センターなどの指定を受け、地域医療に貢献しています。当院では、1名の特定行為研修修了看護師が院内を横断的に活動しています。

施設での実際にPICCを挿入できるようになるまでの経緯

当院ではPICCを挿入していませんでした。まずPICCとは何か、特定行為とは何かを知ってもらう必要がありました。メーカーや自治医科大学研修センターの先生方に協力を得て、PICCの勉強会や自身が講師となり特定行為看護師の説明会を行い病院全体に知ってもらえるように働きかけました。また、自身の実力を証明する為、実習の際に使用した評価表を用いて、院内の各医師や院長と一緒にPICC挿入を実施しました。このことで医師からの評価と信頼が得られ、スムーズに依頼を受ける仕組みも出来たのだと思います。

その後も、PICC挿入患者のもとヘラウンド、アンケートを実施し、問題点の洗い出しを行い、改善を重ねました。同時に看護師への教育も行って行きました。その成果もあり3年間で900件ほどのPICC挿入の実績となりました。

医師がPICCを挿入することはほとんどなく、特定看護師による挿入が99%です。現在も定期的に自治医科大学研修センターでPICC挿入の研修にも参加させていただき、自己研鑽を継続しています。

現状抱えている課題

現在、院内に特定行為研修修了看護師は私一人のみです。一般スタッフとして働きながら特定行為を行うことの限界も感じています。患者にさらにタイムリーに安全にケアを行い、スタッフの教育を進めるためにも研修修了者を増やしていくことが課題です。

特定看護師としての今後の活動目標

院内でも高齢患者の、栄養改善に早期に取り組みたい、少しでも楽に輸液治療を受けてもらいたいというニーズは高かったことが分かりました。地域にも栄養改善や輸液加療のニーズはあるように感じます。まずは、研修修了者を増やし、地域まで活動がひろげられたらと考えています。

特定看護師を目指す方へのメッセージ

特定行為を学ぶことで、医師と看護師の両方の視点を持つことができます。それは、患者に様々な視点から介入できるようになるということです。医師・看護師・コメディカル・患者・家族の懸け橋となることができます。また、自ら抱えていたジレンマも改善しタイムリーに患者にケアを提供できるようになります。指示待ちだけではなく提案することで、自身の役割が変わり周囲からの期待も変わります。

医師が病棟処置にかかる時間を軽減できたことで、重症患者へ医療を提供する時間が確保でき、タスクシフティングの役割も果たせます。特定看護師になることで、責務も増えますが、それ以上にやりがいがあります。興味のある分野1つからでもチャレンジしてみてください。

カーディナルヘルス株式会社

お問い合わせ
0120-917-205



mt-ot-cl55
23.08.8,000.SL